人口減少ニッポン：2025年・2030年の壁をどう乗り越えるか？

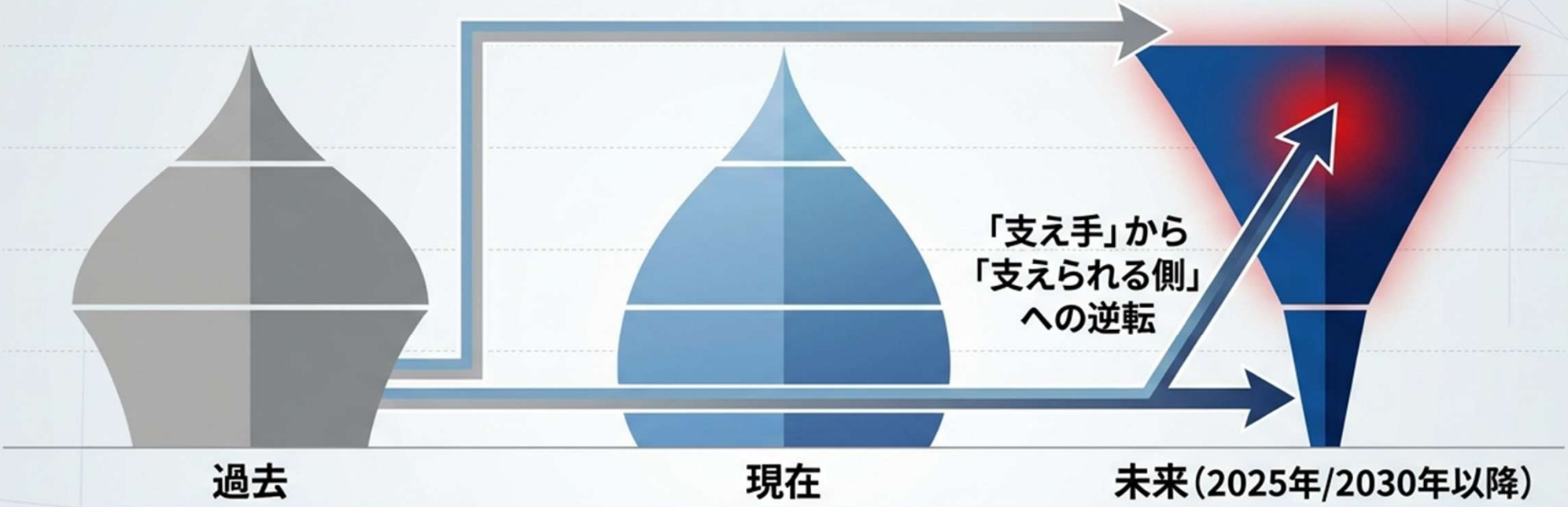
市民と共有する、これからの構造変化と私たちの未来

「みんなが笑って暮らせる社会にしたい！」



Gemini Notebook

日本が直面する「かつてない構造変化」

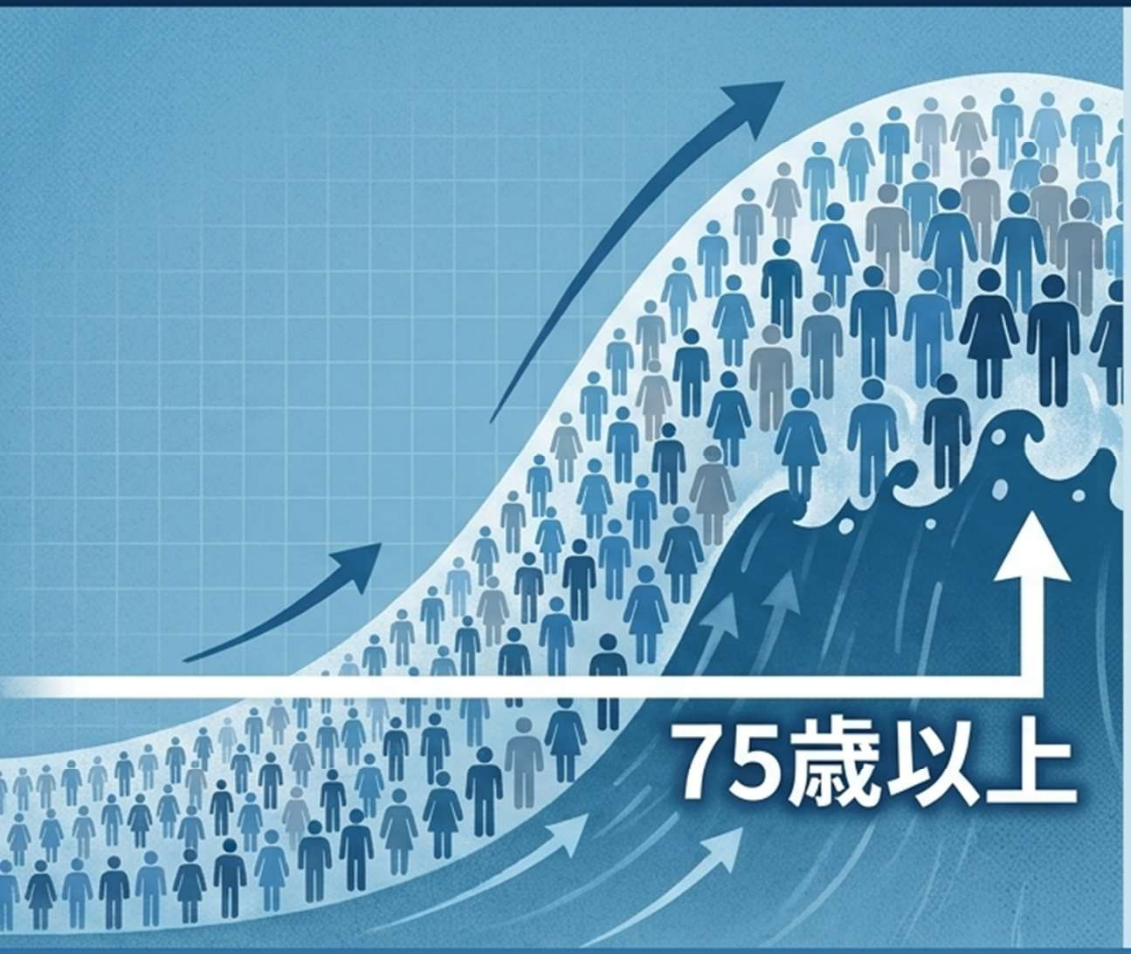


単に「人口が減る」のではありません。
社会の「支え手」と「支えられる側」のバランスが根本的に崩れることが最大の問題です。

この構造変化は「いつか来る未来」ではなく、「すぐ目の前にある現実」として、
2つの大きな壁（2025年・2030年）となって迫っています。

Gemini Notebook

2025年問題：4人に1人が75歳以上になる社会



医療の逼迫：病院のベッド不足、救急車のたらい回し、診察待ち時間の大幅な増加。

介護の限界：介護スタッフの決定的な不足と、自宅での「老老介護」の急増。

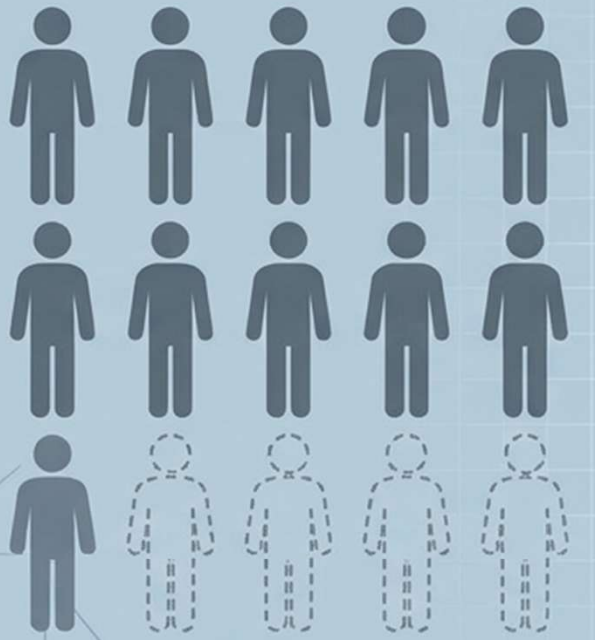
社会保障費の増大：働く現役世代への負担が限界に達する。

2025年は、「命と暮らしの安心」を今のままの仕組みでどう維持するかが問われる年です。

Gemini Notebook

2030年問題：深刻な「人手不足」が日常インフラを直撃する

社会を支える
エッセンシャルワーカーの激減



1/3減少



移動の足：バスやタクシーの運転手不足による大幅な減便・路線廃止。



買い物・生活：スーパーや飲食店の営業時間短縮、地域店舗の閉店による買い物難民。



公共インフラ：道路、水道、橋など、老朽化した設備の維持・修繕の遅れ。

2030年は、「これまで当たり前だった便利な生活」が維持できなくなる年です。

Gemini Notebook

2つの壁はどう違うのか？（課題のシフト）

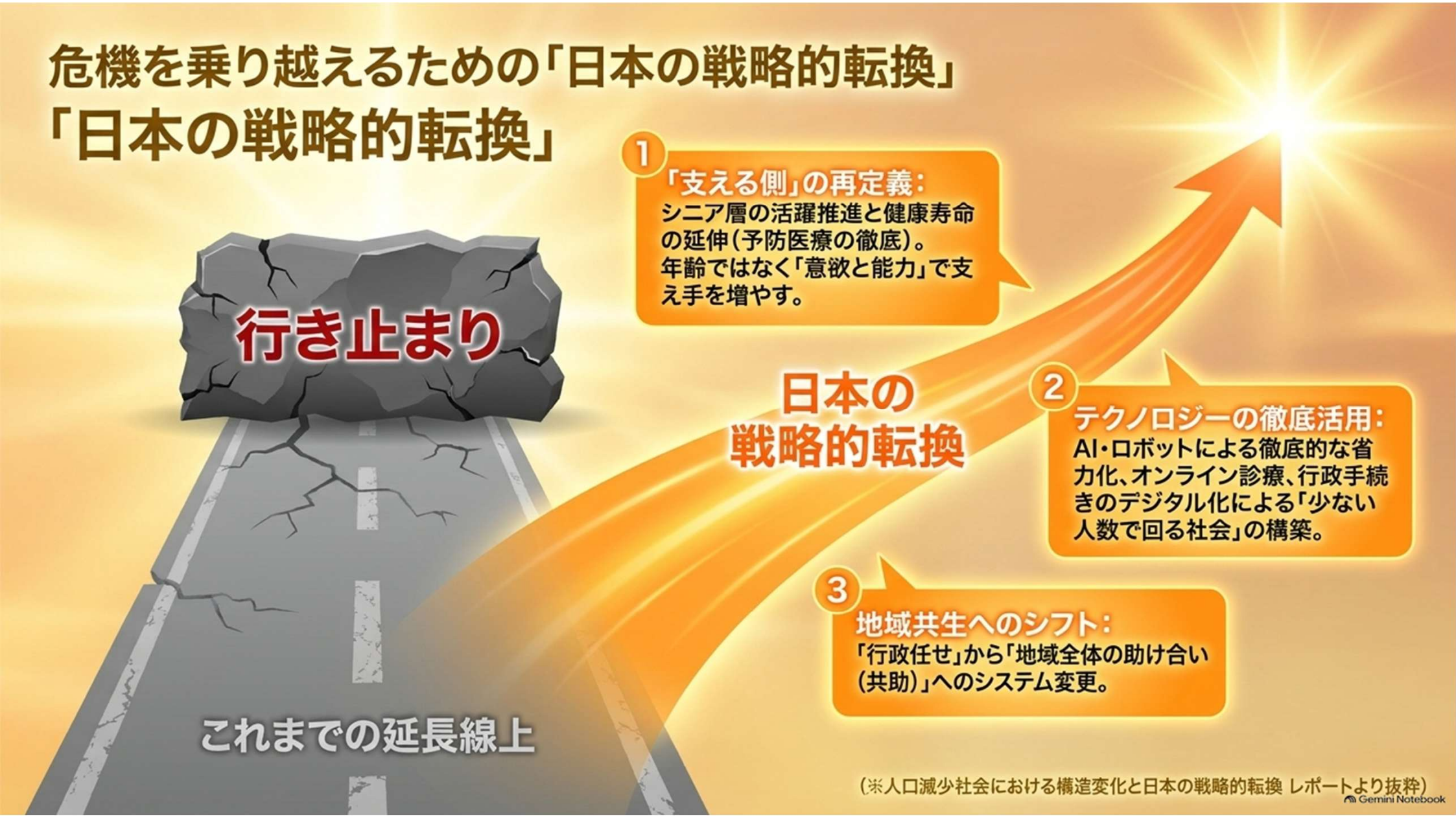
	2025年の壁	2030年の壁
直面する危機	社会保障（医療・介護）のパンク	社会インフラ（労働力・経済）の麻痺
根本的に不足するもの	病床・介護施設・予算	働く人（エッセンシャルワーカー）
市民生活への影響	いざという時の不安（病気・介護）	毎日の生活の不便（移動・買い物）

2025年（医療・介護の壁）を乗り越えても、2030年には社会を動かす「血液（労働力）」が不足する全く別の危機が待っています。
だからこそ、国を挙げた「構造的な方向転換」が必要です。

Gemini Notebook

危機を乗り越えるための「日本の戦略的転換」

「日本の戦略的転換」



（※人口減少社会における構造変化と日本の戦略的転換 レポートより抜粋）

Gemini Notebook

私たちの街で起こす「戦略的転換」（市政の具体策）



スマートなケア：
介護現場へのICT（情報通信技術）導入支援と、センサーを活用した地域の「見守りネットワーク」構築。

多世代の交差点：
若者からお年寄りまでが自然に集い、互いに支え合える「多世代交流コミュニティ拠点」の創出。

地域の足を守る：
ライドシェアの導入検討やコミュニティバスの最適化で、免許返納後も出歩ける街へ。

国の大きな戦略を、市民の皆様の生活を守る「具体的な市の政策」に落とし込むことが私の使命です。

Gemini Notebook

行政だけでは限界。新しい「チーム」としての地域づくり

限界を迎える「公助」依存

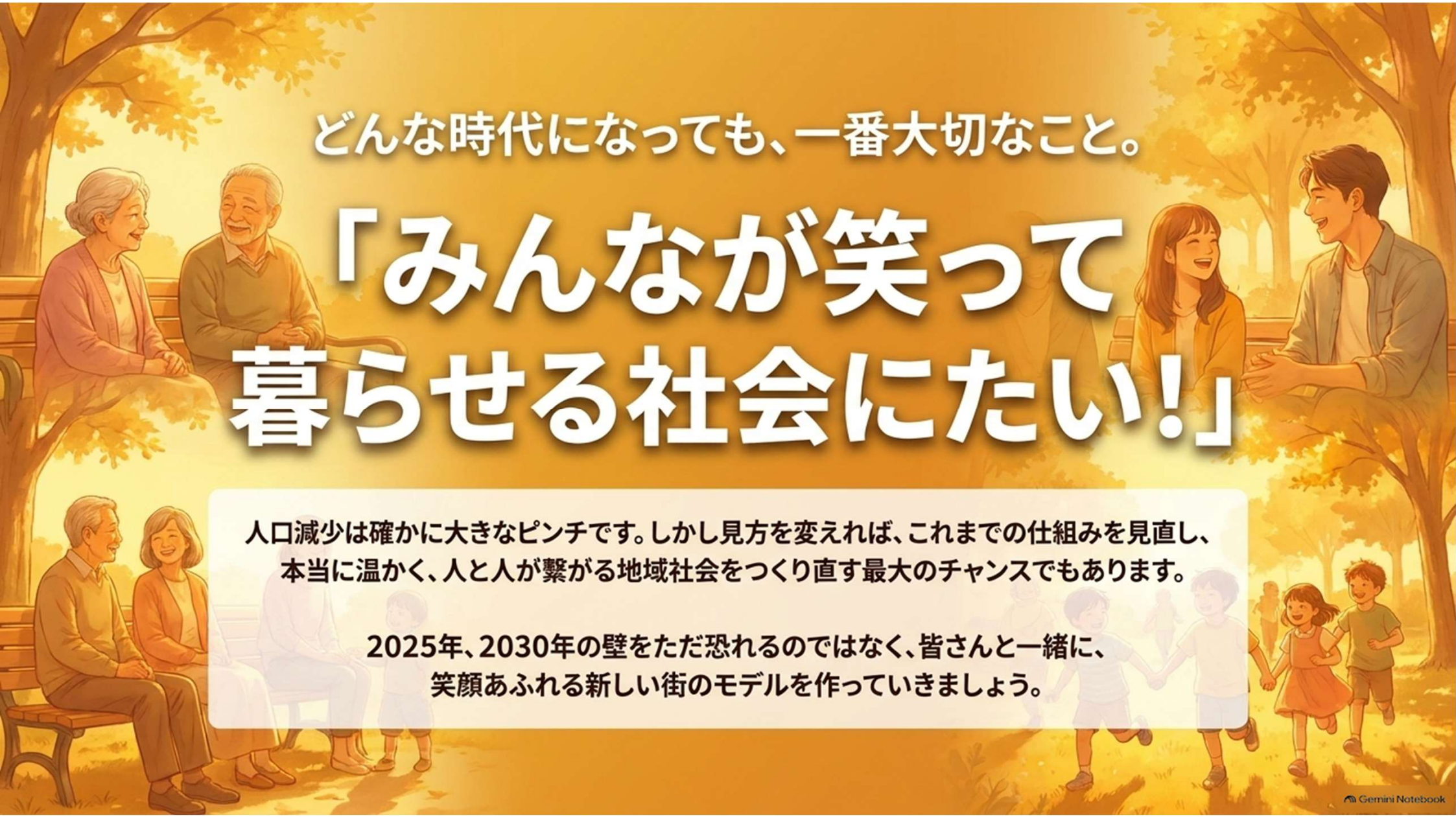


新しい「共助」の形へ



- これまでの「税金を払ってサービスを受けるだけ」の関係から、「市民・企業・行政がひとつのチームになる」関係へのアップデートが必要です。
- これまでの「税金を払ってサービスを受けるだけ」の関係から、「市民・企業・行政がひとつのチームになる」関係へのアップデートが必要。
- 一人ひとりの小さな協力（健康づくり、地域の行事への参加、ご近所のちょっとした見守り）が、この街を救う最大の力になります。

Gemini Notebook


どんな時代になっても、一番大切なこと。
「みんなが笑って
暮らせる社会にたい！」
人口減少は確かに大きなピンチです。しかし見方を変えれば、これまでの仕組みを見直し、
本当に温かく、人と人が繋がる地域社会をつくり直す最大のチャンスでもあります。
2025年、2030年の壁をただ恐れるのではなく、皆さんと一緒に、
笑顔あふれる新しい街のモデルを作っていきましょう。
Gemini Notebook